

UFT One

ソフトウェアバージョン: すべてのバージョン

ランタイム・エンジン・ガイド

ヘルプセンターにアクセス

<http://admhelp.microfocus.com/uft/>

ご注意

© Copyright 1992 - 2022 Micro Focus or one of its affiliates.

保証

Micro Focusおよびその関連会社およびライセンサ（「Micro Focus」）の製品およびサービスの保証は、当該製品およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、Micro Focusはいかなる責任も負いません。ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。明確な指示がある場合を除き、これらを所有、使用、または複製するには、有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

免責事項

ここからアクセス可能なソフトウェアまたはドキュメント（以下「本資料」）の一部には、Hewlett-Packard Company（現在のHP Inc.）およびHewlett Packard Enterprise Companyのブランドが含まれる場合があります。2017年9月1日以降、本資料は所有と経営を別とする企業Micro Focusによって提供されています。HPおよびHewlett Packard Enterprise/HPEマークの使用は歴史的なものであり、HPおよびHewlett Packard Enterprise/HPEマークはそれぞれの所有者に帰属します。

UFT One ランタイム・エンジン について

概要

UFT One ランタイム・エンジン を使用すると、UFT One IDE 全体をインストールすることなく、自身のコンピュータで UFT One テスト(GUI と API の両方)とビジネス・プロセス・テストを実行できます。さらに、ランタイム・エンジンは、Run Results Viewer、UFT One Add-in for ALM、サンプル・アプリケーション、ヘルプ・ドキュメントを伴わずにインストールすることもできます。そのため、コンピュータの貴重なディスク領域を節約できます。

ランタイム・エンジンによるテストでは、いろいろな場所からテストにアクセスし、実行できるため、UFT One インタフェースの起動や UFT One オプションの設定は不要です。テストはバックグラウンドで実行されます。テスト終了時には、テストの結果を表示できます。

ランタイム・エンジンの使用にあたって、UFT One の使用経験はほとんど必要ありません。テストを編集したり、設定を変更したり、アプリケーションで UFT One を動作させる方法を理解したりする必要はありません。必要なのは、テストの選択、実行、実行結果の表示だけです。

対象シナリオ

ランタイム・エンジンは、次のようにさまざまなシナリオで使用できます。

ALMからのテストとコンポーネントの実行	ALM のテスト・ラボ・モジュールからテスト実行をセットアップし、ランタイム・エンジンを使用してこのテストをコンピュータで実行できます。これにより、UFT One インタフェース([アドイン マネージャ] ダイアログ・ボックスでの UFT One アドインのロードなど)の操作を行わずにテストを実行できます。
オートメーションからのテストの実行	ランタイム・エンジンでは、オートメーションからテストを実行できます。ランタイム・エンジンをインストールすると、テスト実行後にコンピュータのシステム・リソースが他のタスクに解放されるため、コンピュータのディスク領域を節約できます。

Jenkins プラグインによる テストの 実行	<p>ランタイム・エンジンは、ビルド・サーバ、つまりアプリケーションのビルドを実行するコンピュータにインストールできます。Jenkins プラグインを使用すると、UFT One テストをアプリケーションのビルド・プロセスにおけるビルド後のアクションとして実行できます。</p> <p>このコンピュータにインストールしたランタイム・エンジンで UFT One テストを実行することにより、重要なアプリケーション・ビルド・タスクにシステム・リソースを解放できます。</p>
外部の UFT One ツールに よるテス トの実行	<p>ランタイム・エンジンをインストールすると、Test Batch Runner およびサイレント・テスト・ランナーなど、UFT One テストをローカルで実行できる外部ツールを使用できます。これらのツールでは、開発中のアプリケーションに対してローカルにテストを実行し、テスト実行後すぐに結果を表示できます。</p> <p>ランタイム・エンジンではテストを編集できないため、このバージョンの UFT One インストールは、アプリケーションの開発者や QA エンジニアが継続的に使用することができ、開発プロセスを通じてアプリケーションの定期的なテストを提供することができます。</p>

ランタイム・エンジン設定のオプション

ランタイム・エンジンはさらに、完全な UFT One IDE としてすべての UFT One アドインをサポートします。そのため、サポート対象のどのテクノロジーを使用するテストでも、ランタイム・エンジンを使用して実行できます。すべての UFT One アドインに含まれるオブジェクトとメソッドは、すべてランタイム・エンジンで使用できます。

テスト実行の一環として、特定の実行環境オプションを設定できます。これらのオプションは、[ランタイムエンジン設定] ダイアログ・ボックス([スタート] > [すべてのプログラム] > [Micro Focus] > [Micro Focus UFT One] > [Tools] > [Runtime Engine Settings])で設定します。

アドイン	ロードするアドインを指定します。
実行結果エクスポート・オプション	実行セッション後にランタイム・エンジンで実行結果から何をどのようにエクスポートするかを指定します。
自動保存のオプション	UFT One バージョン 2021 R1 以降: 開いている GUI テストのコピーを数分ごとに自動保存するかどうかと、自動保存の間隔を指定できます。

リモート接続オプション	<ul style="list-style-type: none">• 他のアプリケーションがこのコンピュータでランタイム・エンジンを使用してテストを実行することを許可するかどうかを指定できます。• リモート・セッションが切断された後も、リモート・コンピュータでのテストの実行を継続するかどうかを指定できます。<ul style="list-style-type: none">• UFT One バージョン 2021 R1 以降: RDP セッションがリモート・コンピュータから切断された後にリモート・コンピュータで使用する解像度を指定します。• UFT One バージョン 2022 以降: [ポーリングで切断を検出] オプションを使用して、切断されたリモート・マシンでテストの実行に失敗した場合のポーリング頻度を設定します。 このオプションにより、UFT One は切断イベント通知を待つのではなく、切断されたセッションを定期的に検出できます。ポーリング頻度の範囲は 10 ~ 60 秒です。 注: これらのオプションを変更するには、UFT One ライセンスがインストールされている必要があります。
実行オプション	ランタイム・エンジンによるテストの実行方法を指定します。たとえば、実行結果の形式、テスト実行後自動的に実行結果を開くかどうか、実行セッションの画面キャプチャやムービーを取得するかなどを指定します。

テキスト認識オプション

GUI テストを実行するときに、ランタイム・エンジン でアプリケーションのテキストをどのように処理するかを指定します。

【テキスト認識】 > 【ABBYY OCR】 言語オプションを設定するときは、次のリストの値を使用する必要があります。

利用可能な値

アブハズ語、アディゲ語、アフリカーンス語、アグル語、アルバニア語、アルタイ語、東アルメニア語、古アルメニア語(グラバル)、西アルメニア語、アヴァール語、アイマラ語、アゼルバイジャン語(キリル)、アゼルバイジャン語(ラテン)、バシキール語、バスク語、ベラルーシ語、ベンバ語、ブラックフット語、ブルトン語、ブゴツ語、ブルガリア語、ブリヤート語、カタルーニャ語、チャモロ語、チェチェン語、ChinesePRC(簡体字中国語の場合)、ChineseTaiwan(繁体字中国語の場合)、チュクチャ語、チュヴァシ語、コルシカ語、クリミアタタール語、クロアチア語、クロー語、チェコ語、デンマーク語、ダルグワ語、数字、ドンガン語、オランダ語、オランダ語(ベルギー)、英語、エスキモー語(キリル)、エスキモー語(ラテン)、エスペラント、エストニア語、エヴェン語、エヴェンキ語、フェロー語、フィジー語、フィン語、フランス語、フリジア語、フリウリ語、ゲール語(スコットランド)、ガガウズ語、ガリシア語、ガンダ語、ドイツ語、ドイツ語(ルクセンブルグ)、ドイツ語(新正書法)、ギリシャ語、グアラニ語、ハニ語、ハウサ語、ハワイ語、ヘブライ語、ハンガリー語、アイスランド語、イド語、インドネシア語、イングシ語、インターリングア、アイルランド語、イタリア語、日本語、カバルダ語、カルムイク語、カラチャイ語、カラカルパク語、カシュビアン語、カワ語、カザフ語、ハカス語、ハンティ語、キクユ語、キルギス語、コンゴ語、韓国語、コリヤーク語、クペレ語、クムク語、クルド語、ラク語、ラップ語、ラテン語、ラトヴィア語、レズギ語、リトアニア語、ルバ語、マケドニア語、マダガスカル語、マレー語、マリンケ語、マルタ語、マンシ語、マオリ語、マリ語、マヤ語、ミアオ語、ミナンカバウ語、モーホーク語、モンゴル語、モルドビン語、ナフトル語、ネネツ語、ニヴフ語、ノガイ語、ノルウェー語、ノルウェー語(ブークモール)、ノルウェー語(ニーノシュク)、ニャンジャ語、オック語、オジブワ語、古英語、古フランス語、古ドイツ語、古イタリア語、古スペイン語、オセト語、パピアメント語、ピジン・イングリッシュ、ポーランド語、ポルトガル語(ブラジル)、ポルトガル語、プロヴァンス語、ケチュア語、レトロマン語、ルーマニア語、ルーマニア語(モルドバ)、ロマ語、ルワンダ語、ルンディ語、ロシア語、ロシア語(旧正書法)、サモア語、セリクブ語、セルビア語(キリル)、セルビア語(ラテン)、ショナ語、スー語、スロバキア語、スロベニア語、ソマリ語、ソルブ語、ソト語、スペイン語、スンダ語、スワヒリ語、スワージー語、スウェーデン語、タバサラン語、タガログ語、タヒチ語、タジク語、タタール語、チンポー語、トンガ語、ツワナ語、チュニジア語、トルコ語、トルクメン語、トゥヴァ語、ウドムルト語、ウイグ

	<p>ル語(キリル)、ウィグル語(ラテン)、ウクライナ語、ウズベク語(キリル)、ウズベク語(ラテン)、ビザヤ語、ウェールズ語、ウオロフ語、コサ語、ヤクート語、ザポテック語、ズールー語</p> <p>UFT One バージョン 2021 R1 以降: [ABBYY OCR] 言語オプションは、UFT One のインストールに ABBYY OCR エンジン機能が含まれている場合にのみ利用できます。</p>
Web および Windows アプリケーション・オプション	Web アプリケーションまたは Windows アプリケーションを対象とした具体的なシナリオで、ランタイム・エンジンがどのようにテストを実行するかを指定します。

 その他の参照項目:

- [UFT ランタイム・エンジンの使用方法 \(8ページ\)](#)
- [前提条件 - テスト実行オプションを設定する方法 \(11ページ\)](#)

UFT ランタイム・エンジンの使用方法

UFT One ランタイム・エンジンとは、UFT One のよりスリムなインストールで、次のシナリオのように UFT One IDE 全体がない場合に、UFT One テストを実行できません。

- ALM(テスト計画、テスト・ラボ、またはビジネス・コンポーネントの各モジュール)からテストおよびコンポーネントを実行する場合
- オートメーション・スクリプトからテストを実行する場合
- Jenkins プラグインからテストを実行する場合
- 外部の UFT One ツール(Test Batch Runner やサイレント・テスト・ランナーなど)からテストを実行する場合
- テストを編集せずに、アプリケーションに対して(更新後に)ローカルにテストを実行する場合

説明する内容

- [前提条件 - ランタイム・エンジンが正しくインストールされていることを確認する方法 \(8ページ\)](#)
- [前提条件 - ライセンスをインストールする方法 \(9ページ\)](#)
- [前提条件 - テスト実行オプションを設定する方法 \(11ページ\)](#)
- [ALM からテストを実行する方法 \(12ページ\)](#)
- [オートメーションを使用してテストを実行する方法 \(13ページ\)](#)
- [Jenkins プラグインからテストを実行する方法 \(15ページ\)](#)
- [Test Batch Runner を使用してテストを実行する方法 \(15ページ\)](#)
- [サイレント・テスト・ランナーを使用してテストを実行する方法 \(16ページ\)](#)

前提条件 - ランタイム・エンジンが正しくインストールされていることを確認する方法

ランタイム・エンジンを使用してテストを実行する前に、次のことを確認します。

- テスト用に正しいアドインをインストールおよびロードしていること。現在ロードしているアドインが、[ランタイム エンジン設定] ダイアログ・ボックスで変更できること。
- インストール・ウィザードの [UFT One 設定] 画面で、**[他の Micro Focus 製品でテストおよびコンポーネントを実行可能にする]** オプションが選択されていること。

これらのオプションのいずれかまたは両方を実行していない場合は、UFT One セットアップを再度実行し、インストール・ウィザードの **[変更]** オプションを選択することで、このオプションを設定できます。

前提条件 - ライセンスをインストールする方法

ランタイム・エンジンでテストを実行する前に、有効な UFT One ライセンスをインストールする必要があります。ランタイム・エンジン設定でリモート接続オプションを変更する場合にも、ライセンスが必要です。

これを行うには、ライセンス・インストール・ウィザードまたはコマンド・ラインを使用します。

ライセンス・ウィザードからインストールする場合	<ol style="list-style-type: none">1. [スタート] メニューから、ライセンス・インストール・ウィザードを開きます([スタート] > [すべてのプログラム] > [Micro Focus] > [Micro Focus UFT One] > [Tools] > [Functional Testing License Wizard])。2. ウィザードの手順に従って、正しいライセンス・タイプをインストールします。 <div data-bbox="456 785 1409 1192" style="border: 1px solid green; background-color: #e6f2e6; padding: 10px;"><p>注:</p><ul style="list-style-type: none">• ライセンスを要求する場合、そのライセンス・タイプの UFT One ランタイム・エンジンが必要になります。• シート・ライセンスの場合、ライセンス・キー文字列またはライセンス・キー・ファイルが必要になります。• コンカレント・ライセンス・インストールの場合、ライセンスをインストールするライセンス・サーバのアドレスが必要になります。</div>3. ウィザードを終了します。 ランタイム・エンジンがテストを実行する場合、テストの実行前にライセンスをチェックします。
コマンド・ラインからインストールする場合	<ol style="list-style-type: none">1. コマンド・ウィンドウを開きます。2. コマンド・ウィンドウで、次のいずれかを入力します。<ul style="list-style-type: none">• シート・ライセンスの場合: "<UFT One インストール・フォルダ>%bin%HP.UFT.LicenseInstall.exe" seat "<ライセンス・キー文字列>"/seat "<ライセンス・キー・ファイルへのパス>" <div data-bbox="456 1604 1409 1724" style="border: 1px solid green; background-color: #e6f2e6; padding: 10px;"><p>注: ライセンス・キー文字列、またはライセンス・キー・ファイルへのパスのいずれかを入力する必要があります。</p></div><ul style="list-style-type: none">• コンカレント・ライセンスの場合: "<UFT One インストール・フォルダ>%bin%HP.UFT.LicenseInstall.exe" concurrent <ライセンス ID> <ライセンス・バージョン> <サーバ名/アドレ

ス> [<セカンダリ・サーバ名/アドレス>] [/force]

注:

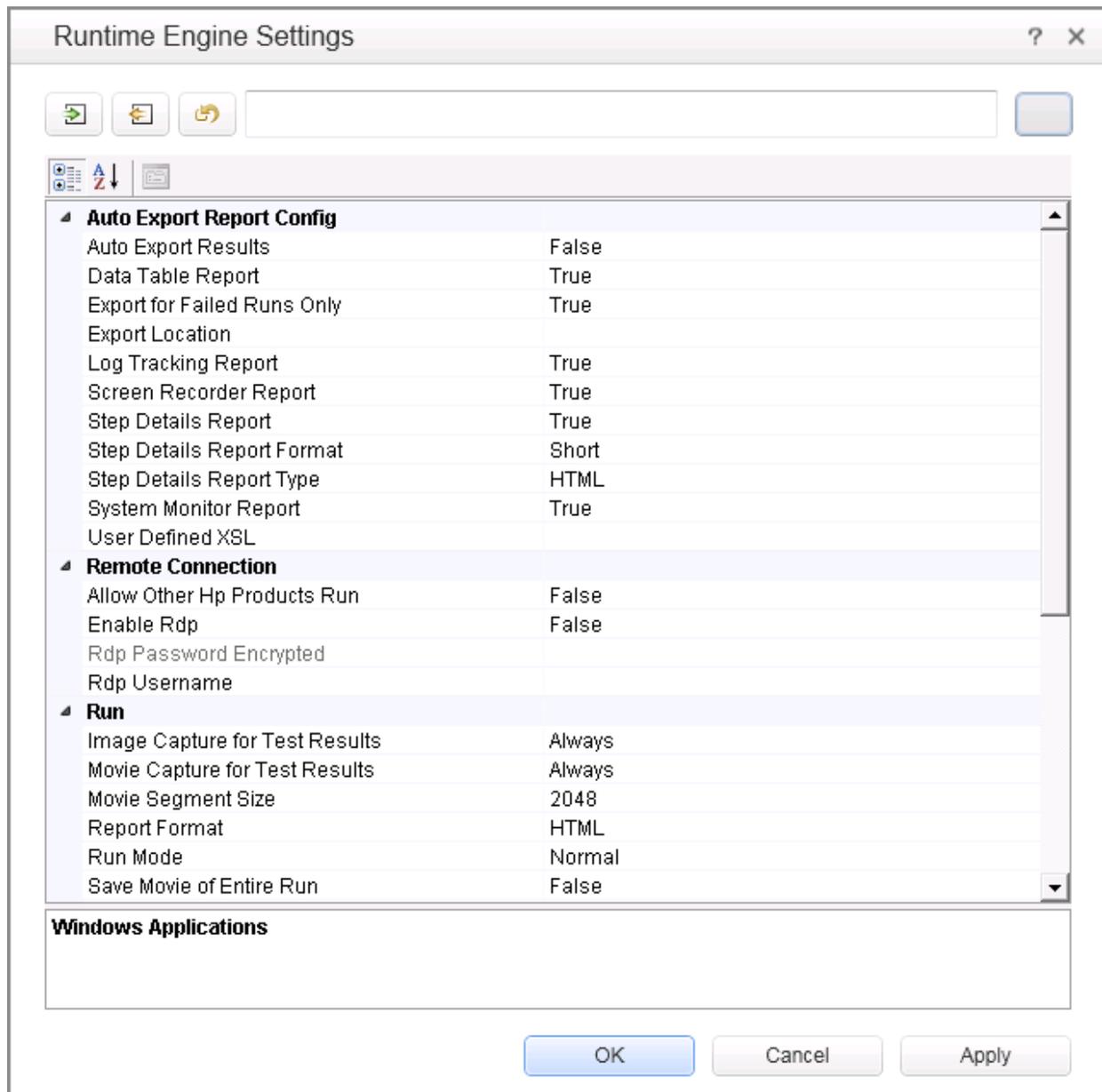
- <サーバ名/アドレス> または <セカンダリ・サーバ名/アドレス> は、**サーバ名/アドレス:ポート**の形式で指定します。ポート番号の指定は任意です。
- <サーバ名/アドレス> または <セカンダリ・サーバ名/アドレス> は、ライセンス・サーバの [設定] 表示枠にある [メイン] タブに表示されるサーバ名またはアドレスと同じ形式で指定します。ライセンス・サーバのアドレスの設定の詳細については、[AutoPass License Server のオンライン・ドキュメント](#)を参照してください。
- [セカンダリ・サーバ名/アドレス] と /force パラメータの指定はいずれも任意です。
- /force パラメータを指定すると、現在のインストールが失敗した場合でも、ライセンス・インストール情報が保存されます。これに続く UFT One セッションで、UFT One はリストアップされたライセンス・サーバに、該当するライセンスがあるかどうかをチェックします。

3. ウィザードを終了します。

ランタイム・エンジンがテストを実行する場合、テストの実行前にライセンスをチェックします。

前提条件 - テスト実行オプションを設定する方法

テストを実行する前に、テストを実行するためのオプションを指定する必要があります。[ランタイムエンジン設定] ダイアログ・ボックスを使用すると、これらの設定を指定できます。このダイアログ・ボックスは、[スタート] メニューから利用できます([スタート] > [すべてのプログラム] > [Micro Focus] > [Micro Focus UFT One] > [Tools] > [Runtime Engine Settings])。



これらの設定は、次の方法で更新できます。

手動で設定する方法	<p>ダイアログ・ボックスで提供されるオプションを使用して、ドロップダウン・リストから関連する値を選択し、[適用] をクリックして設定を保存します。</p> <p>注: 保存する前に、UFT One が実行中でないことを確認します。</p> <p>これらの設定を更新したら、[設定をスクリプトにエクスポート] ボタン  をクリックして、これらの設定をオートメーション・スクリプト・ファイル(.vbs 拡張子で保存)にエクスポートできます。このスクリプトは、後続のテスト実行のためにコンピュータに再インポートしたり、ランタイム・エンジンを介してテストを実行している他のユーザと共有したりできます。</p>
設定スクリプトから設定をインポートする方法	<p>これらの設定は、別のコンピュータ上の UFT One IDE、またはランタイム・エンジンの別のインストールからエクスポートされた、生成済みのオートメーション・スクリプトから更新することもできます。</p> <p>次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. [スクリプトから設定をインポート] ボタン  をクリックします。2. インポート・スクリプト(拡張子は .vbs)が保存されているディレクトリに移動し、[開く] をクリックします。 <p>ダイアログ内の設定がそれに応じて更新され、スクリプト内のデータが反映されます。</p>

各オプションの説明については、ダイアログ・ボックス内の項目を選択し、ダイアログの下部に表示される説明を参照してください。

注: [ランタイム エンジン設定] ダイアログ内のリモート・デスクトップ接続用のオプションを設定している場合、これらのオプションを変更する前に、コンピュータに管理者としてログインし、HP.UFT.ヘルパ・サービスを開始する必要があります。

ALM からテストを実行する方法

ランタイム・エンジンを使用すると、次のようにテスト・ラボ・モジュールから直接テストとコンポーネントを実行できます。

1. インストールの一環として、DCOM が ALM からテストを実行するように設定されていることを確認します。
ランタイム・エンジンのインストール時にこの設定が未実行であった場合は、Additional Installation Requirements ツール(ランタイム・エンジンとともにインストールされます)で設定できます。このツールは、**[スタート]メニュー([スタート] > [すべてのプログラム] > [Micro Focus] > [Micro Focus UFT**

- One] > [Tools] > [Additional Installation Requirements] > [ALM 統合用の DCOM 設定] オプション)にあります。**
2. [前提条件 - テスト実行オプションを設定する方法 \(11ページ\)](#)の説明に従って、テスト実行オプションを設定します。
 3. リモート・エージェントを、[スタート] メニューから起動します([スタート] > [すべてのプログラム] > [Micro Focus] > [Micro Focus UFT One] > [Tools] > [Remote Agent])。
 4. Windows トレイで、[リモート エージェント] アイコンを右クリックし、[設定] を選択します。
 5. [リモート エージェントの設定] ダイアログ・ボックスで、必要に応じて次のオプションを設定します。
 - **テスト・ツールの再起動(次の実行回数後)**
 - **次のアイドル時間(分)後にテスト・ツールを終了**
- 注:** リモート・エージェントの他のオプションは、ランタイム・エンジンでは使用できません。
6. ALMで、テスト計画モジュールから、必要に応じて個々のテストまたはテスト・セットを実行します。テスト・セットのセットアップと ALM からの実行の詳細については、*Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド*を参照してください。
 7. テスト実行が完了したら、テスト実行オプションで指定された方法で結果が表示されます。

オートメーションを使用してテストを実行する方法

「オートメーション」とは、あるアプリケーション内のソフトウェア・オブジェクトを別のアプリケーションからアクセスできるようにする Microsoft 社の技術です。これらのオブジェクトは、VBScript や VC++ などのスクリプティング言語またはプログラミング言語を使用して作成して操作できます。オートメーションを利用することで、アプリケーションの機能をプログラムの中から制御できるようになります。

オートメーションを使用すると、スクリプトを作成して、UFT One を開き、オプションと設定を変更し、テストを実行できます。これにより、人手を介さず、指定した日時にテストを自動的に実行できます。

たとえば、次の操作を行うオートメーション・スクリプトを、Microsoft Visual Basic で作成および実行できます。

- テストまたはコンポーネントに必要なアドインのロード
- UFT One の開始
- テストまたはコンポーネントのオープン

- [オプション] ダイアログ・ボックス、[テストの設定] または [ビジネス コンポーネントの設定] ダイアログ・ボックス、および [記録と実行環境設定] ダイアログ・ボックス(すべてフル UFT One IDE 内)に相当する設定

- テストまたはコンポーネントの実行

オートメーションを使用してテストを実行する場合、次の手順を実行します。

1. **別のコンピュータがランタイム・エンジンを使用してコンピュータ経由でオートメーション・スクリプトを実行している場合**、DCOM がインストールの一環としてオートメーションでテストを実行するように設定されていることを確認します。
ランタイム・エンジンのインストール時にこの設定が未実行であった場合は、Additional Installation Requirements ツール(ランタイム・エンジンとともにインストールされます)で設定できます。このツールは、[スタート] メニュー([スタート] > [すべてのプログラム] > [Micro Focus] > [Micro Focus UFT One] > [Tools] > [Additional Installation Requirements] > [Configure DCOM Settings for Automation Scripts] オプション)にあります。
2. スクリプトがランタイム・エンジンを使用しているコンピュータからアクセスできることを確認します。
3. [前提条件 - テスト実行オプションを設定する方法 \(11ページ\)](#)の説明に従って、テスト実行オプションを設定します。
4. 優先するオートメーション実行モデルを使用して、テスト・スクリプトを実行します。オートメーションを介したテストの実行の詳細については、[UFT One ヘルプセンター](#)を参照してください。

注: UFT One を表示可能に設定するオートメーション・スクリプト内のオプションは、ランタイム・エンジンによるテストの実行時には、無視されません。オートメーション・スクリプトに、次のオートメーション・メソッドを含む、これらのオプションが含まれていても、テストは問題なく実行されません。

- AutoGenerateWith
- DisableVORRecognition
- DisplayKeywordView
- TimetoActivateWinAfterPoint
- WithGenerationLevel

5. テスト実行が完了したら、テスト実行オプションで指定された方法で結果が表示されます。

Jenkins プラグインからテストを実行する方法

Jenkins CI プラグインは、ランタイム・エンジンと統合されており、UFT One テストをビルド・プロセスの一部として、ファイル・システムから直接自動的に実行できます。これらのテストを実行するには、次の手順を実行します。

1. テストまたはテスト・バッチが保存されていて、ファイル・システム上でアクセスできることを確認します。
2. [前提条件 - テスト実行オプションを設定する方法 \(11ページ\)](#)の説明に従って、テスト実行オプションを設定します。
3. Jenkins プラグインで機能テストを実行するように設定します。詳細については、「[UFT One と Jenkins](#)」を参照してください。
4. Jenkins プラグインで、プラグインの **[テスト]** ボックスにテストまたはテスト・バッチの場所を指定します。

注: 複数のエントリを指定するには、フィールドの右側にある下矢印をクリックし、各テスト・パスを別々の行に入力します。それらのパスがローカル・ネットワークのすべてのマシンからアクセスできることを確認します。

アプリケーションのビルドを実行する場合、Jenkins プラグインはこのテストをプラグイン設定に従って自動的に実行します。

5. テスト実行が完了したら、テスト実行オプションで指定された方法で結果が表示されます。

Test Batch Runner を使用してテストを実行する方法

Test Batch Runner(ランタイム・エンジンとともにインストールされます)を使用すると、単一のテストまたはテストのグループをテスト・バッチ(.mtb 拡張子で保存)に組み込んで実行することもできます。これらのテストを実行するには、次の手順を実行します。

1. テストおよびテスト・バッチが保存されていて、ファイル・システム上でアクセスできることを確認します。
2. [前提条件 - テスト実行オプションを設定する方法 \(11ページ\)](#)の説明に従って、テスト実行オプションを設定します。
3. Test Batch Runner を、**[スタート]** メニューから開きます(**[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[Micro Focus]** > **[Micro Focus UFT One]** > **[Tools]** > **[Test Batch Runner]**)。
4. Test Batch Runner のメイン・ウィンドウで、テストをテストのリストに追加し、次のいずれかの方法で実行します。
 - **[ファイル]** > **[追加]** を選択し、プリコンパイルしたテスト・バッチ・ファイル(.mtb)を選択します。

- テスト・バッチ・ファイルを作成または開き(**【ファイル】 > 【新規/開く】**)、テストをテスト・バッチに追加します(**【テスト】 > 【フォルダからテストを追加】**)。
5. 実行する必要なすべてのテストを追加したら、ツールバーで **【実行】** ボタン  をクリックします。
ランタイム・エンジンがアプリケーション上で自動的に 1 つまたは複数のテストを実行します。個々のテスト実行のステータスは、Test Batch Runner のメイン・ウィンドウで確認できます。
 6. テスト実行が完了したら、テスト実行オプションで指定された方法で結果が表示されます。Test Batch ウィンドウには、実行結果の場所が表示されます。

サイレント・テスト・ランナーを使用してテストを実行する方法

ランタイム・エンジンでは、サイレント・テスト・ランナー(ランタイム・エンジンとともにインストールされます)を使用して、テストを実行できます。これにより、LoadRunner Professional および Application Performance Management からの UFT One テストの実行方法をシミュレートできます。また、UFT One テストに LoadRunner Professional および Application Performance Management との互換性があることを確かめることもできます。

注: サイレント・テスト・ランナーでテストを実行するには、インストール・ウィザードの **【カスタム セットアップ】** 画面で **サンプル・コンポーネント** をインストールする必要があります。

サイレント・テスト・ランナーでテストを実行するには、次の手順を実行します。

1. テストおよびテスト・バッチが保存されていて、ファイル・システム上でアクセスできることを確認します。
2. [前提条件 - テスト実行オプションを設定する方法 \(11ページ\)](#) の説明に従って、テスト実行オプションを設定します。
3. サイレント・テスト・ランナーを、**【スタート】** メニューから開きます(**【スタート】 > 【すべてのプログラム】 > 【Micro Focus】 > 【Micro Focus UFT One】 > 【Tools】 > 【Silent Test Runner】**)。
4. **【サイレントテストランナー】** ウィンドウで、**【参照】** ボタンをクリックして、テストを選択します。
5. **【テストの実行】** をクリックしてテスト実行を開始します。
テスト実行が完了すると、**【サイレントテストランナー】** ウィンドウにテスト実行の終了を確認するメッセージが表示されます。
6. **【サイレントテストランナー】** ウィンドウで、**【テスト実行ログ】** ウィンドウをクリックします。テキスト・ファイルが表示され、現在の実行のすべてのテスト・ステップのレポートが示されます。

フィードバックの送信



ランタイム・エンジン・ガイドを使用してお気づきになった点をお知らせください。

電子メールの宛先: docteam@microfocus.com